

# ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 <b>スープラ・スポーツ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.550</b>	△RG <b>0.043</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：スープラ・スポーツ**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

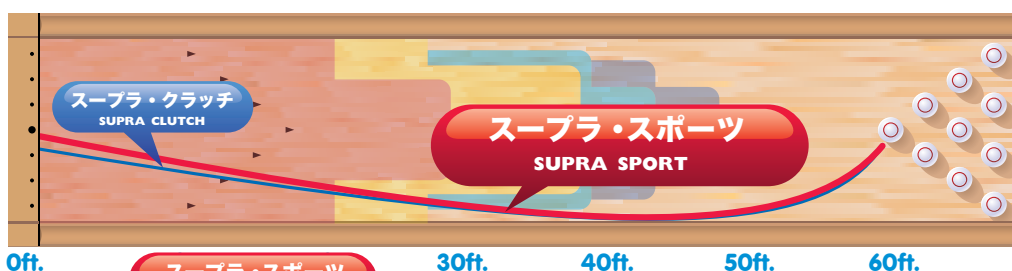
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：スープラ・クラッチ**

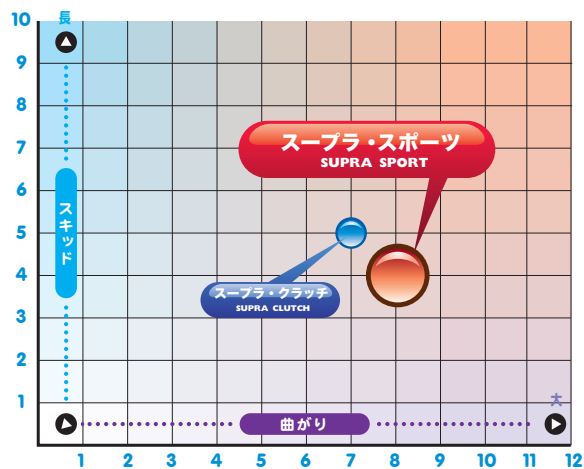
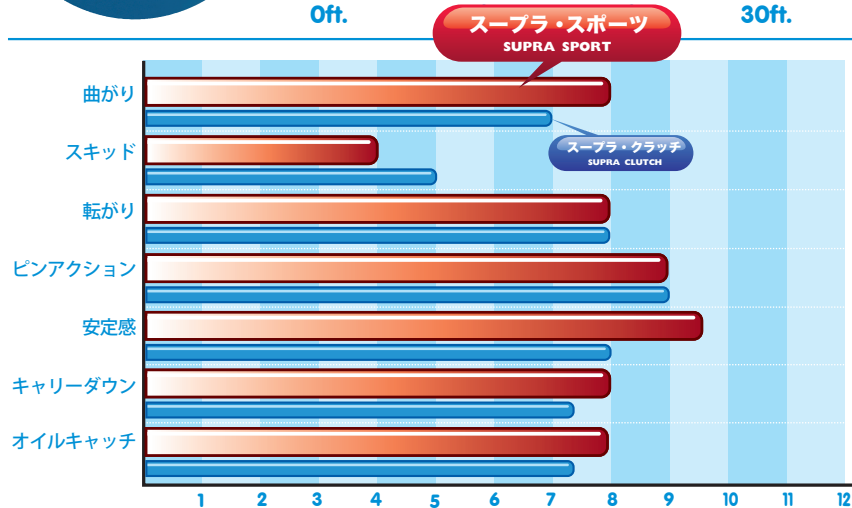
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



## ボールの評価

MOTIVの人気ライン「SUPRA」シリーズにおいて、これまでの「スピードとアングル」という明確なコンセプトに新たな一手が加わりました。それが今回登場した「SUPRA SPORT」です。従来のSUPRAシリーズは、ゲームが進みラインが開けている状況において鋭い入射角と爆発的なバックエンドリアクションを武器とし、いかにストライクを量産するかという攻撃的な性能が際立っていました。特に「SUPRA」や「SUPRA GT」は、外ミス許容しながらも角度をなす曲がりピンをなぎ倒す、いわば「展開が進んだ後の主役」と言える存在でした。それに対し「SUPRA SPORT」は、明確に役割が異なります。オイルが削れ始め、ライン取りがシビアになる軽～中程度のコンディション、さらにはフラットでミスが許されないスポーツパターンにおいて、その真価を発揮すると言えるでしょう。シリーズ初のソリッドカバーを採用した点からも、その狙いは明確で、「曲げる」よりも「コントロールする」ことに重きを置いた設計となっています。搭載されているクアッドファイア・コアは、高RG(2.55)と中程度のディファレンシャル(0.043)という数値が示す通り、レーン手前での過度な立ち上りを抑えつつも、適度なフレアによってピン前での持続的なドライブを生み出します。これは、ベノムシリーズに採用されているギア・コアと比較しても回転の立ち上がりを意図的に抑えており、より「読みやすく」「扱いやすい」挙動を実現していると言えます。さらに注目すべきは、「BLACK VENOM」で高い評価を受けたLeverage MFSカバーストックの採用です。このカバーは、適度な直進性と穏やかな摩擦感を両立しており、レーン状況を的確に捉えながらも過敏に反応しない特性を持っています。そのため、キャリアダウンや微妙なオイル変化にも柔軟に対応でき、投球の再現性を高めてくれる点が大きな魅力と言えるでしょう。つまり「SUPRA SPORT」は、これまでのSUPRAシリーズが担ってきた「攻め」の役割に対し、「守りながら攻める」という新たなポジションを確立したモデルです。特にトーナメントやスポーツコンディションのようなシビアな状況下でこそ真価を発揮するでしょう。

## 特記事項

**SUPRA SPORTはその系譜を受け継ぎつつ、より高度なレーン攻略を可能にする「戦略的ピース」として位置付けられる存在です。バッグの中にこの1球を加えることで、コンディション対応力は一段と広がると言えるでしょう。**